

## 子供の貧困と自殺対策に関する総合的研究

### —産後妊婦の自殺リスク要因に関する研究—

研究代表者 藤原 武男（東京医科歯科大学・教授）  
研究協力者 木津喜 雅（東京医科歯科大学・講師）  
森田 彩子（東京医科歯科大学・講師）  
那波 伸敏（東京医科歯科大学・特任助教）  
伊角 彩（東京医科歯科大学・プロジェクト助教）  
土井 理美（東京医科歯科大学・プロジェクト助教）  
小山 佑奈（東京医科歯科大学・博士課程 1 年）  
福屋 吉史（東京医科歯科大学・博士課程 1 年）

**要旨：**本研究の目的は、エジンバラ産後うつ尺度（EPDS）を用いて、産褥婦の自殺リスク要因を明らかにし、その対策を検討することである。千葉県千葉市で実施された 3 ヶ月健診を受けた母親 8,074 名を対象とした横断研究のデータを用いた。EPDS、子ども期の逆境体験（ACEs：両親の離婚、虐待やネグレクト、経済的困窮など 8 項目）、母親の年齢を含む母親の属性、パートナーとの関係性、家庭状況、子どもの属性、産後状況について尋ねた質問紙調査（自己記入式）が実施された。本研究では、EPDS の項目 10（自分自身を傷つけるという考えが浮かんできた）をアウトカムに用いた。その結果、ACEs が 3 個以上かつ 25 歳未満の産後の母親は、ACEs がない 35 歳以上の母親と比較して、10.3 倍自傷念慮を有することが明らかとなった（95%CI=5.3-20.2）。本研究から、3 個以上の ACEs を有し 25 歳未満の産後の母親は自傷念慮を抱く危険が高いことが明らかとなった。ACEs と若年妊娠という 2 つのリスク要因を有する母親に対して、自殺の予防的介入を行う必要性が示唆された。

#### 1. 研究目的

子どもの貧困による健康影響という場合、子どもの健康にばかり目がいきがちだが、親、とくに母親のメンタルヘルス、あるいは自殺リスクについても検証が必要である。子どもの貧困と健康を考える場合、親のメンタルヘルスを媒介することが明らかになっており（Yagi et al, 2016）、親のメンタルヘルスも同時に検討しなければならないからである。とくに産褥期、産後から 1 年程度は母親のメンタルヘルスの管理が重要であり、産後 1 年までの産褥婦の自殺リスクについても最近報道されたばかりである（毎日新聞、2016）。しかしながら、産褥婦の自殺リスク要因は明らかになっていない。年齢、被虐待歴、望まない妊娠、配偶者の有無や社会的サポートの有無はどのように、どの程度産後の自殺リスクと関連しているのかを明らかにする必要がある。

産後うつ病のスクリーニングツールとして広く利用されているエジンバラ産後うつ病自己評価票（Edinburgh Postnatal Depression Scale: EPDS）の項目 10 は、自傷念慮を測定する項目として用いられ、

産後の自殺を強く予測することがわかっている。自傷念慮は産後の母親の 3.9%から 9%が経験しており、母親の幼少期の逆境体験（Adverse Childhood Experiences: ACEs）と若年妊娠が強いリスク要因である。これまで ACEs と若年妊娠の自傷念慮に与える影響は個別に検討されており、ACEs と若年妊娠の相乗効果については明らかにされていない。

よって、本研究の目的は、EPDS を用いて、産褥婦の自殺リスク要因を明らかにし、その対策を検討することである。

## 2. 研究方法

2013 年 9 月から 2014 年 8 月まで千葉県千葉市で実施された 3 ヶ月健診を受けた母親 8,074 名を対象とした横断研究のデータを用いた。EPDS、ACEs（例えば両親の離婚、虐待やネグレクト、経済的困窮など 8 項目）、母親の年齢を含む母親の属性、パートナーとの関係性、家庭状況、子どもの属性、産後状況について尋ねた質問紙調査（自己記入式）が実施された。本研究では、EPDS の項目 10（自分自身を傷つけるという考えが浮かんできた）に 1 点「はい、かなりしばしばそうだった」～3 点「めったになかった」と回答した場合を自傷念慮あり、4 点「全くなかった」と回答した場合を自傷念慮なしと定義した。自傷念慮の有無をアウトカム変数として、ACEs（0 個、1～2 個、3 個以上）と母親の年齢（25 歳未満、25 歳から 35 歳未満、35 歳以上）の交互作用項を投入したロジスティック回帰分析を行った。

（倫理面への配慮）

データ解析は、匿名化したデータの二次利用として倫理委員会の承認をうけて実施した。

## 3. 結果

母親の学歴や年収などのリスク要因を考慮した場合も、自傷念慮は ACEs と若年に関連していた。また、ACEs が 3 個以上かつ 25 歳未満の産後の母親は、ACEs がない 35 歳以上の母親と比較して、10.3 倍自傷念慮を有することが明らかとなった（95%CI=5.3-20.2）。また初産の母親に限った場合も、同様の結果が得られた（OR=7.6, 95%CI=3.2-17.9）。

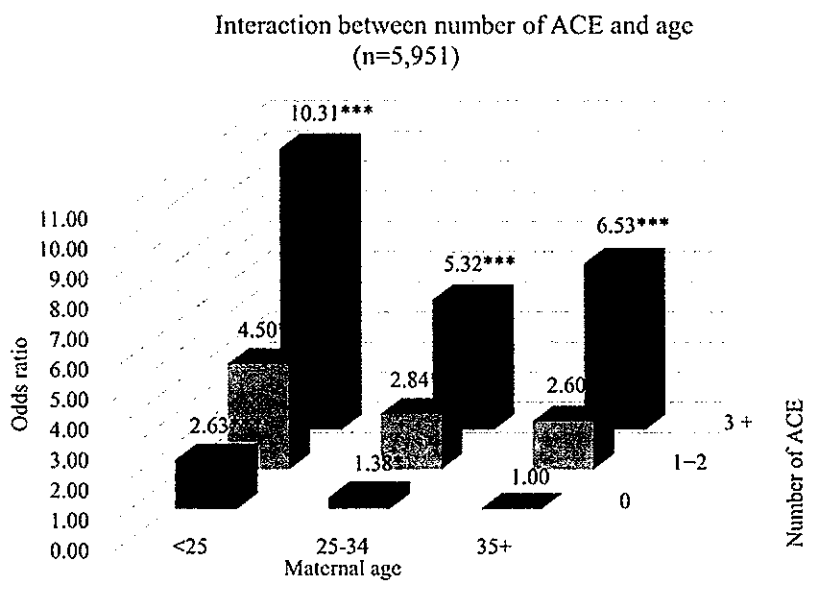


図 母親の年齢、子ども期の逆境体験（Adverse Childhood Experiences, ACEs）の数と自傷念慮との関連。

#### 4. 考察・結論

本研究から、3個以上の ACEs を有し 25 歳未満の産後の母親は自傷念慮を抱く危険が高いことが明らかとなった。ACEs と若年妊娠という 2 つのリスク要因を有する母親に対して、自殺の予防的介入を行う必要性が示唆された。

#### 5. 政策提案・提言

妊娠届を提出時に実施しているアンケートにおいて、年齢と子ども期の逆境体験 (ACEs) をきちんと把握し、25 歳未満の若年でかつ ACEs が 3 個以上である場合には産後の希死念慮が高い可能性があるため、精神科との連携や保健師による適切な介入が必要である。

#### 6. 成果の外部への発表

(1) 学会誌・雑誌等における論文一覧 (国際誌 1 件、国内誌 1 件)

Doi S, Fujiwara T. Combined effect of adverse childhood experiences and young age on self-harm ideation among postpartum women in Japan. *Journal of Affective Disorders*. (in press)

(2) 学会・シンポジウム等における口頭・ポスター発表 (国際学会等 1 件、国内学会等 2 件)

- 1) 土井理美. 産後の自傷念慮に与える幼少期の逆境体験と若年妊娠の相乗効果、第 29 回日本疫学会学術総会、2019 年 2 月 1 日、東京.
- 2) 森田彩子. 子ども時代の希死念慮が老年期うつ病に与える影響、第 29 回日本疫学会学術総会、2019 年 2 月 1 日、東京.

(3) その他の外部発表等 なし

#### 7. 特記事項

(1) 健康被害情報 なし

(2) 知的財産権の出願・登録の状況 なし